平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	３３	都道府県・指定都市名	岡山県
学校名（生徒数）	学校法人片山学園　倉敷翠松高等学校（1148人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：岡山県倉敷市平田155
電話番号：086－422－3565
研究内容等を掲載しているホームページのURL：info@suisho.ed.jp

【研究成果のポイント】

○研究のキーワード：アセスメント能力・判断能力・疑似体験・自己評価

○研究成果のポイント：

１．事例を用いた演習は，アセスメント能力・判断能力を向上させることができる。

２．演習に対する自己評価は，自己の成長を生徒に実感させることができ，主体的に学ぶ姿勢が身に付く。

３．臨床場面で体験する頻度の高い事例を用いることは，演習での学びを看護臨床実習場面で活用できたと生徒に実感させることができ，意欲の向上につながる。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

基礎看護において看護に関する知識・技術を活用する能力を養い，アセスメント能力・判断能力を向上させる演習方法の工夫に関する研究

（２）研究主題設定の理由

科目「基礎看護」において，様々な看護に関する知識と技術を活用する能力を養い，看護の一連の過程に沿って患者の状態に応じた看護の必要性を判断する能力や問題解決のための基礎的思考力を育成することは，科目「看護臨地実習」の目標に明示されている「問題解決能力を養う」ための基盤として，また専門性の高い看護判断能力の育成のために重要である。

今研究では，臨床場面で体験する頻度の高い事例を演習に用い疑似体験させることによって，理論と実践をつなぐ，既習の看護に関する知識と技術を活用する能力を養い，アセスメント能力・判断能力を向上させることを目標とした。

指導に当たっては，学習習慣が十分定着していないこと，集団の中で自らの思考・判断しそれを表現することに対して苦手意識を持っていることなどの本校生徒の傾向を踏まえ工夫をした。

（３）研究体制

校長 ― 副校 ― 看護科教

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	学習指導要領に基づいた指導計画の作成 看護過程　事例演習１の実践・評価 看護過程　事例演習２の実践・評価 看護臨床実習への連携　評価

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

１　臨床場面で体験する頻度の高い事例の選択と工夫

・臨床場面で生徒が受け持つことの多い疾患，患者の傾向，生徒に再確認させたい知識・技術，考えさせたいアセスメント，問題点，他の専門教科の学習進度などを検討し，事例を決定、演習を実施した。事例数は従来と変更ないが，場面とロールプレイ回数を変更した。

（成果）看護臨床実習場面で技術演習が役に立った，他の科目と関連付けて学習できた，原理・原則の理解など学習していたことが活用できたと自己評価する生徒が多かった。

２　思考・判断能力，表現する能力の育成を目指した工夫

・演習の記録は個別指導を行い，特にアセスメントに対して苦手意識の強い生徒には自信が持てるよう指導した。検査・薬品についてはワークシートを活用した。

・グループワークを活用し，自分の考えを述べる，簡潔に要点を伝える，他人の意見を聞く，要点をとらえる，適切な応答ができるなど意識させ取り組んだ。

・グループの意見交換を通して,抽象的な思考から具体的な思考となるよう指導した。

（成果）グループ内でお互い意見を出し合い考えることができた，自分たちの知識・情報を共有し合えた，自分の視点では気づかないことを多く発見できたなど評価する生徒が多かった。また，アンケートからは，アセスメントに関する４項目について，従来の指導の生徒よりできたと評価する生徒が多かった。

３　学習・演習に対する主体性の育成を目指した工夫

・事例ごとに全体的な学習課題を提示し，提出期限など具体的に知らせる

・演習のテーマを知らせ、演習での自分の目標・評価・課題を明確に毎回記入させる①学習習慣の定着②必要な文献の活用③文献の要点をまとめる④計画性を持って学習することについて，意欲的に取り組み、主体性が向上するよう工夫した。

（成果）計画的に学習でき，提出期限に遅れる生徒はいなかった。演習に対する自分の目標が明確化し，次への課題が具体的に表現できるようになった。従来の指導による生徒より，要努力と自己評価する生徒は減少した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

事例を用いた演習は，既習の知識，技術の活用を促し、主体性をもって生徒が学習することに効果があった。臨床場面で体験する頻度の高い事例を用いた演習は，看護臨床実習で学習したことが活用できたと生徒が学習成果を実感でき，学習意欲の向上につながっている。アセスメント能力や判断能力は，事例に関連してはできるようになったと自己評価する生徒が増えたことから育成にはつながっているが，類似しない場合でも自信を持って表現できるような指導の工夫がさらに必要である。また，事例の学習では，事例数を増やし，病態との関連性を意識した自己学習ノートの活用方法が課題である。

（２）研究成果の意義等

アセスメント能力・判断能力を向上させる取り組みとして，ロールプレイを用いた事例演習を実践する場合，事例の検討および実践上の課題，評価等は役立つであろう。

（３）指定期間終了後の取組

演習事例数の検討とその評価方法および自己学習ノートの活用方法を検討し、指導方法を継続的に研究していく予定である。